



秋に行われる毎年恒例の「ゆりの木祭り」



1階のラウンジは地域の人でも利用できるよう開放している



まちのごみ拾いは「地域と繋がり隊」の原点とも言える



施設長の戸村秀次さん



事務部長の銅銭公一さん



首からレイを下げ、ハワイの雰囲気を楽しむ

## 理念を尊重し 地域に密着し 職員の教育に 力を注ぐ

千葉県を中心部分に位置し、今年の4月に市制施行70周年を迎えた東金市。そんな東金市の市街地から細い道路に入った先にある介護施設が、「ゆりの木苑」だ。

建物内には特別養護老人ホームにデイサービス、ケアハウス、居宅介護支援事業所、訪問介護在宅支援センターがあり、すぐ近くにはグループホームもある。グループホームを訪ねてみると、取材当日はボランティアとして地域のフラダンスチームが、入

居者たちと交流していた。ダンサーの振りを真似したり、ときおり手拍子を送ったりする入居者たちは、晴れ晴れとした表情を浮かべていて、楽しそうな雰囲気が伝わってくる。

同施設を運営する社会福祉法人ゆりの

木会は、市内にある「浅井病院」を運営する医療法人静和会も属する「浅井ヘルスケアグループ」の一員。しかし当初は、同じグループでありながら病院との連携がうまくできていなかったという。そこで、同病院の事務長だった戸村秀次さんが同病院と同施設の「架け橋」として、施設長に就任。「施設の経営」と「地域連携」に注力し、地域に寄り添いぬくもりのあるケアの提供に努めてきた。

「職員には初めに『私は経営のプロではあるけれど、

ケアのプロではない。なので、ケアのことは任せる』と話しました」と、戸村さんは振り返る。

同施設では、職員の働きが最も重視されている。「日頃から『E・S（従業員満足度）なくしてC・S（顧客満足度）なし』と考えています。やはり、職員の満足度が高くないと、良いサービスにつながりません。良いサービスには経営の安定がもちろん必要ですが、それなりの技術と知識もなければ成立しません。そのため、職員の教育にも力を入れています。地域とのつながりについては、初代の理事長が地元出身でなかったことから、地域とのかかわりをより密にしようという働きかけもあり、地域住民との交流を始めました」

そんな同施設オリジナルの部署として、職員の研修と施設の地域活動を担う「美来創造室」がある。研修については、職員の知識と技術向上を目標に、一人ひとりの資格取得状況に応じた年間の研修計画を作成したり、研修参加に向けた調整や準備などを行っている。研修は施設内で行うものもあれば、グループの他施設合同のものもある。さらに、学んだ技術を披露する実習型の研修も設けている。

地域活動では、「地域と繋がり隊」を結成し、職員にも積極的に参加してもらっている。具体的な内容は、地域のごみ拾いから始まり、地域住民に向けた介護予防体操や認知症講座の開催、地域の盆踊りへの参加など。初めは芳しくなかった地域の反応も、活動を続けたことでグループ名や施設のことを知ってもらいきっかけになり、好意的なイメージにつながっているようだ。

続きは、本誌12月号をご覧ください